

第 5 回武蔵野市産業振興審議会専門部会会議録

【審議会概要】

日時	令和 5 年 7 月 6 日（木） 14：00～16：00
場所	武蔵野市役所 812 会議室
出席委員	福田敦会長、生駒耕示副会長、安藤孝委員、高橋勉委員、浅川絢子委員、 渕上佳子委員、平湯友子委員、石渡志津委員、田川良太委員
事務局	吉崎産業振興課長、尾崎経済対策調整担当課長、庄司係長、 北村まちの魅力向上担当係長、藤木主任、須藤主事
専門部会 次第	1 開会 2 議題 (1) 報告事項 ア 第 4 回武蔵野市産業振興審議会専門部会会議録（要旨） イ 第二期産業振興計画進歩管理状況（令和 4 年度） ウ 市民等ワークショップの実施報告について (2) 討論 第三期武蔵野市産業振興計画 骨子案について (3) その他 3 閉会
配付資料	次第 ・資料 1 令和 4 年度第 4 回武蔵野市産業振興審議会専門部会会議録 ・資料 2 第二期産業振興計画進歩管理状況（令和 4 年度） ・資料 3 市民等ワークショップの実施報告について ・資料 4 第三期武蔵野市産業振興計画骨子案

【議事】

1 開会

- ・配布資料の確認

2 議題

(1) 報告事項

- ア 第 4 回武蔵野市産業振興審議会専門部会会議録（要旨）
- イ 第二期産業振興計画進歩管理状況（令和 4 年度）
資料 1、資料 2 について事務局より説明
- ウ 市民等ワークショップについて
資料 3 について事務局より説明

委員	商店会関係者として参加した。様々な分野の人が参加して良い意見交換ができた。自己紹介の中で、女子大学生から「武蔵野市は吉祥寺もあり賑やかだが、子育てする環境としてはどうかと不安に思っている」との意見があった。その後、商店会のまちに対する思いや取組を説明したところ、武蔵野市で子育てしたいと言ってもらえて嬉しかった。今後もこのようなワークショップを開催していただきたい。
委員	日頃、意見交換することのない人達と話げできた。また、多世代の人と「地域」という 1 つのテーマについて議論ができたのが良かった。そのことがまちづくりには大切な要素であることを気づくこともできた。このような場が今後

	も広がっていけば良い。
委員	<p>企画の工夫が感じられた。BGMがかかっている中、テーブルを囲んで和気あいあいと話せる雰囲気、多世代の人が武蔵野市のまちという共通の話題について語り合うことができ良かった。今後もこのような機会を持続していくと良い。</p> <p>「武蔵野市はきらきら華やかなところを追い求めるのではなくその逆をいくと良い」、「まずは自分たちが楽しむことが大切である」といった意見があったが、これまでに無い視点で武蔵野市の良さを再認識できた。</p>
委員	<p>ファシリテーターが素晴らしい雰囲気を作っていて良かった。武蔵野市には良いものは多いが、伝わっていないところがある。助成想起されるくらいにはなっているが、さらに情報発信等により認知度が上がって純粹想起されるくらいになると良い。</p>
会長	<p>アンケート結果を見ても満足度が高い。常日頃、学生は商店街や事業者の人たちと直接話す機会は少なく、「まちをどう考えているか」といった今回のテーマのようなことを、フランクに話し合える場があまりなかった。同じ「地域」という共通点のもとに、地域の価値を伝え合って再認識したり、どのような思いを持って商売をしているかを学生が知ることができて良かった。</p> <p>期待感が高すぎると、現状とのギャップに満足感が低くなるものだが、コミュニケーションの場があれば、期待感を下げて現状の評価を上げて満足度を高めることにつながる。武蔵野市にはこのような場を継続して持つことを模索してもらえると良い。</p>

(2) 討論

第三期武蔵野市産業振興計画 骨子案について

資料4について事務局より説明

委員	<p>市役所の近くにアットホームな雰囲気の弁当屋がある。近くの団地等に住む高齢者の食を支えていると同時に、自分の足で歩いて買いに行ける場所があることで、高齢者のフレイルの予防にもなる。商店会は、高齢者をはじめとした市民の生活を支えるコミュニティの中心的役割を担わなければいけない。</p> <p>自分の商店会では、抽選会を45年続けて実施している。アナログな抽選会だが会場でお客さんの生の声を聴くことができる。お客さんから直接的に意見やニーズを聞き、それに応えた活動をしていく必要がある。デジタルの発達が進んでいく中でも、商店会はコミュニティの中核として直接コミュニケーションを取れる場であることが重要だ。</p>
委員	<p>観光に関する記述について、マイクロツーリズムという言葉は再考頂きたい。</p> <p>また、インバウンドの消費が大きい中、武蔵野市のまちの特性もあるとは思いますが、もう少し触れた方が良いのではないかと。</p> <p>学生・子どもとの連携や他団体との連携等については、実際の取組みの現況を踏まえて事業を組み立てる必要がある。</p> <p>農業振興について多く触れられているが、工業振興の記述がほとんどない。商工会議所に工業部会もあり、工業振興に関する記述を増やしてはどうか。</p>
委員	<p>施策16について、起業・創業後も元気に事業を継続していくために、創業後の成長・修正支援が重要となる。現在の記載だけだと入り口部分のみの施策に見えてしまうため、起業・創業後の成長支援に関する文言も入れ込んで頂きたい。</p>

	<p>い。</p> <p>また、「より専門的な相談にも対応した体制充実」とあるが、多様な業種ごとの対応は幅が広過ぎる。財務支援や事業支援といった表現にすると良いのではないか。</p> <p>「チャレンジ」というワードを増やして頂きたい。特に、国や東京都も推進しているが、若者、女性、シニアの創業サポートの充実を入れ込んで頂きたい。また、起業支援は、事業アイデアから事業化までの起業の一連の流れに沿った支援をワンストップですることが重要である。「ワンストップ支援」を充実させることを表現して頂きたい。</p> <p>施設 17 は、「学びなおし」でも良いが「リスクリング」という表現を入れてはどうか。例えば、子育て後の再就職時に希望通りにいかないこともあり、リスクリングが必要な人への支援が必要である。</p> <p>施策 13 の事業承継は、短期的なものではなく、早くても5年かかると言われている中、長期的に取り組むキーワードが欲しい。また、「創業希望者と承継先とのマッチング」はハードルが高く、あらゆる可能性という意味で書かれているのであれば良いが、創業者が承継先の事業を受け継ぐことはあまりなく、マッチング成立件数は多くないのではないか。</p>
委員	<p>P6「市民から見た目指すまちの姿」は、それぞれの世代別に目指すところが示されていて分かりやすい。一方で、現在の表現だと宣言させられている印象を受けるため再考頂きたい。また、子育てのイラストにはお父さんが子育てしているイラストもあると良い。</p> <p>ワークショップにて、「商店会に居場所を作る」という意見に新たな気づきを得た。子育て広場のボランティア養成講座では、幅広い世代の人が集まって議論をしたが、その中で「商店会に親子の居場所がほしい」という意見があった。商店会で親子が離れて買い物をしたり、リフレッシュできる場所づくりという発想がこれまでになかった。これまでの子育て支援は、親へのフォローができていなかったが、子育て支援も次の段階に入っている。子どもと離れる時間を商店会の中で作れるというのは、消費にもつながり、商店会と家族の双方にメリットがあるのではないか。これまでの「働くためにやむを得ず子どもを預ける」、から「リフレッシュするために子どもを預ける」文化を吉祥寺から発信できると良い。第6期長期計画で謳われている「明るい未来をつくる」ための、今の時代に必要な支援に繋がっていくと考える。</p>
委員	<p>市民にとって分かりやすい表現という点では、文化産業とクリエイティブ産業を区別して使っているのかどうか整理が必要である。基本方針にも「多様な文化を発信するまち」とある。文化産業は感性が豊かになる、精神的な価値などの意味を含んでおり、クリエイティブ産業にこだわらず、親しみを持ちやすい文化産業と表現すれば良いのではないか。</p> <p>P2 (3) 社会・経済情勢の変化について、クリエイティブ産業が注目され始めた背景として、IT化が進んでいく中で、21世紀は創造性が経済発展の大きなエネルギーになるといった点についても触れても良いのではないか。また、(4)に、「子育て世代と高齢者が労働参画することが求められている」とあるが、子育て世代や高齢者は経済のために働かなければいけない、という印象を受ける。2018年の教育改革で示された、「子ども達は受け身ではなく主体的に学ぶことが大切」となっている点等にも触れられると良い。</p> <p>一緒にまちを作っていこうという視点が必要だ。P6(3)について、子育てでは、「町の人に見守られて安心して子育てを楽しみます」や、子どもについては「地域で働く人たちとの関わりを楽しみ、元気に育ちます」といった、皆が一緒に育っていくという表現の方が良い。</p> <p>施策方針2の「学生や地域と連携して創る」について、「子どもや若者が育ち、</p>

	<p>まちが育つ産業振興」のように皆が一緒に育ち、作っていくといったニュアンスがあると良い。また、施策7「子育て世代が過ごしやすい」は受け身的な感じがするので、「子どもと子育て世代がともにまちを楽しむ事業展開」といった表現の方が良いのではないかと。同様に、「学生と地域の連携による新たな価値創造」についても、共に創っていくというニュアンスがほしい。</p>
委員	<p>第3章 P4 (2)「武蔵野産業の現況と課題」は、後半の施策の序章となるところなので、施策との整合性が取れるようにした方が良い。例えば、子育て世代に関する施策があるが、子育て世代が多く住んでいるといった表記がない。</p> <p>これまでの議論にあった、経済がソフト産業にシフトしている点や、スモールビジネス、副業についても触れてほしい。</p> <p>P6「市民からみためざすまちの姿」について、視点はいいが、ワクワク感や希望が感じられない。武蔵野市にずっと住みたいと思える表現を検討してほしい。</p> <p>P9 施策3について、ワークショップでは、来街者を増やすことだけでなく住む人が満足して、ここで消費することが大切ではないかといった意見も多かったことから、住む人が幸せと感じる地域密着型の文言を入れた方が良いのではないかと。</p> <p>施策が読みにくい順になっている。市民が理解しやすい順を再考頂きたい。</p>
委員	<p>海外のホテルでは、親子が離れて過ごす空間やプログラムが充実している。例えば、子どもを預けられるプログラムとして、子どもだけで楽しめるいちご狩りのスペースを作るという事例が近隣市ではあるが、商店会の中にそのような場を作るという発想はなかった。長期的取組みにはなると思うが、商店会としても一つのテーマとして取り組んでいきたい。</p> <p>コロナ禍で持つことが難しくなっていた「サードプレイス」が重要だということがよく分かった。また、まちおこしは、若者・よそ者・変わり者が大切と言うが、武蔵野市の商店会も多様な人との交流により、地元事業者の先入観を壊していってもらうことも大切である。商店会の理事も高齢者男性が多いため、若者や女性の意見を聞き、それを反映していくことが必要である。女性は子育てを通じてネットワークを形成している。そのような女性のネットワークとの交流機会がなかったということに気づいた。</p> <p>吉祥寺は商業のまちという位置づけだったが、最近オフィスビルや住宅の開発も進んでおり、今後は昼間人口及び子育て世代を含めた夜間人口も増えていくと考えられる。開発情報を持っている都市整備部と産業振興課が情報を共有・連携し、早期から様々なニーズを集めてまちづくりを進めていくと良いのではないかと。</p>
委員	<p>人々の暮らし方をみると、住んでいる場所で過ごす時間が一番長い。また、少子化対策として、育児に対する経済的な給付も大切ではあるが、時間が作れることが効果的だと言われている。暮らしの中で、自分の時間の使い方が大切であるが、武蔵野市は「住まう」という点ではとてもポテンシャルが高いまちである。住んでいる人達も、武蔵野市は何でも揃っている、暮らしやすいと思っている。それらを更に突き詰めていくということが、産業振興計画の中に散りばめられたら良い。</p> <p>産業振興を考えるうえで、ソフト政策とハード政策を一緒に進めて行くことが重要ではないかという議論は庁内で出ている。長期的視点に立ち、何を指すのかを考えていくのと同時に、今やるべきことを推進していく。計画を市民と一緒に推進していくことが重要と感じた。その点から、P6「市民から見えた目指すまちの姿」は一緒に取り組んでいく表現を再考し、最終的には計画自体に武蔵野市らしさが出せると良い。</p> <p>また、ワークショップを通して、話してみても初めて分かることが多いことに</p>

	気づいた。まちの中に会話ができる場があり、コミュニケーションが生まれるまちにすることが計画の大きなポイントとなると考える。
会長	<p>「多様性」といった面では、様々な見方がある中、あらゆる層の人達への配慮が大切であると感じた。</p> <p>用語の説明については、用語集を巻末に付けることになると思うが、それでも分かりづらい、主旨が伝わりづらい点については更に砕けた言葉での説明が必要である。</p> <p>創業・起業支援について、伴走型支援が重要という話があった。商工会議所や金融機関、中小企業診断士等、経営の課題解決に対するコーディネートや支援ができる人がサポートして事業者の不安感をなくしていく配慮も必要と考える。</p> <p>サードプレイスについては、代表的なものとして、コミュニティカフェがある。コミュニティカフェの形態は多様にある。例えば、外国人がステイするゲストハウスと、食事を提供するコミュニティカフェが連携し、機能を分担することができれば、それぞれの事業者の事業参入障壁も低くなる。また、日替わりシェフという取組みもある。いきなり飲食店を経営するのはハードルが高いため、試してみたい人がカフェを運営でき、様々な人が出店する個性的な施設になるのではないか。その他、子育て世代を対象としたものやワークショップを開催するカフェ、外国人向け施設など、特定のテーマを持ったカフェを民間主導で運営することで、そこから直接・間接的に様々な意見を得ることができるのではないか。</p> <p>次のステップとして、本計画をどのように推進していくかどう推進体制の検討や、施策を評価する担当部署、評価方法、評価を踏まえて次のステップに必要なもの等を整理していく必要がある。</p> <p>心身ともに健康な状態のことを表すウェルビーイングという言葉があるが、このような表現を計画の中に入れることで、より共感を得られるものになるのではないか。</p> <p>P3 の物価上昇率を超える賃上げの実現が課題と記載している点については、継続的に賃上げできるかが問題となる。今の情勢だと継続的に賃上げはできない。武蔵野市の価値・ブランド作りを謳うならば、起業で事業者を増やすことも大切ではあるが、価値ある店、稼ぐ力を持つ企業を増やすことが重要である。高コストになっている中、価値を高めていくことが重要であることを現況と課題の視点として、織り込んでおくと良い。</p> <p>施策4、6、それぞれ「活力」と「にぎわい」の順番が違う。こだわりがあって変えているのかどうか。</p>
事務局	「活力」と「にぎわい」の語順は上位計画の長期計画に合わせて「活力」を先にしたい。

- (3) その他
特になし

3 閉会